

## 萩にあしあと残そうよ

「寒波襲来さえ新たな体験。」



夏みかん大丈夫?  
(1月9日)

### 「自由気ままな歌日記」

正月の二日

縄跳びケーナ吹き

読書をしても時余る午後

(一月二日)

真冬日の観測三十年ぶりと  
哀れ湯の出ぬ蛇口をひねる  
(一月八日)

萩の地に選びし会社南青山に  
支店を持つも導きなるか  
※斎藤茂吉の長男茂太氏による  
「茂吉の周辺」を読み、青山脳

病院跡地の近くに岸田商会東京  
支店があることを再認識。

(一月十日)

川上に逆らい波の立つ水面  
松本川も橋本川にも  
(一月一六日)

筏舟を浮かべてみたくなる  
ほどに緩く流れる大寒の川  
(一月二〇日)

年明けの大寒波で、萩では珍しく本格的な降雪・積雪となりました。山間部は別として、市街地では積もつてもすぐ溶けるのが常、小雪だった昨季は二月にたつた一度しか降りませんでした。

寒い日や風の強い日が多くなると、屋外活動が億劫になります。だからといって狭い部屋にじっとしているのも続ければ苦痛になります。そんな時は意を決し、ランニングに出るとスッキリすることも。

そうそう、備えておいていいがなかつたものは電気ストーブ:エアコン暖房の補助にとても役立っています。

### 「あしあとノート」

#### ◆大荒れ萩の白い光景◆

そんな日などは家で大人しくしているべきなのですが、危険のない行為なら好奇心を満たしたくなる性分です。せめて世界遺産の雪景色くらいは取材しておきたくて出かけ

令和3年(2021)  
2月1日発行  
-第19号-  
発行:大塚好一



萩城跡。堀の水が凍り、不思議な氷絵が出現していました。

恵美須ヶ鼻造船所跡、萩反射炉、萩城跡、松下村塾:さすがに山奥の大板山たら場遺跡を目指すことは控え、代わりに波の荒々しい菊ヶ浜などへ足を運びました。

◆唐音水仙公園(益田市)◆  
海岸に咲く可憐な花を見たくなり、島根県益田市の唐音水仙公園を目指しました。寒波による嵐で傷められ、花のある株は少なめながら十分に見応えがありました。ここは鎌手(かまて)ふるさとおこし推進協議会、つまり地元の人々が整備をしたそうです。



戸締めされた松下村塾。神社の社務所等も閉まっていました。

なんと二百万球を超えるニホンスイセンが植栽されているとのこと。一足早い春の訪れを味わうことができました。



海を望む斜面に咲き競い、  
良い香りを漂わせています。



菊ヶ浜と指月山。  
山、波、砂、雪の色が重なり美しいです。

## ◆雪景色の秋吉台へ◆



雪の話に戻りますが、秋吉台の景色が気になりました。



遊歩道は動物の足跡だけ。

道路にはまだ雪が残り、萩市山間部はひどい状況でしたが、カルストロード（秋吉台道路）は除雪され快適に走行することができました。

## 〔波間のエッセイ〕

### 『新春のランニング』

のよう避けなくてはと思ひながら目をやると、ロウバイの花が咲いていました。毎日

車で通っていたのに、いつの間にこんなに開いたのだろう

### 〔萩の五十音 その②〕

#### 野山獄語る歴史の舞台裏

のやまごくかた れきし ぶたいつら

日陰に残っていた雪も溶けてしまえば、年明けの寒波も喉元を過ぎてしまつたような冬の萩です。

小さな目標を立ててランニングを再開した私も、手袋をしている以外は晩秋と変わらぬ服装で外に飛び出しました。当たり前のことがですが、寒中といつても毎日が寒い訳ではありません。

初めのうちは国道一九一号に沿う歩道を走ります。いつも思うのは、車道は一定の幅が確保されるのに、歩道は付け足しのように広くなったり狭くなったりすること。そして一段高く作られた歩道になると、交差点では低くなり、車が乗り入れる場所には傾斜がつき、実にデコボコであることです。些細な段差や傾斜でも足首を捻りやしないかと気を遣いますから、シルバーカー（手押し車）を扱うのも一苦労だと思います。

狭い歩道には庭木の枝が飛び出していることも。いつも

心も体も温まり、上着を脱いで記念撮影です。

初めて目にする雪化粧の秋吉台。展望台から眺めれば満足の予定でしたが、長靴を履いた足はずんずんと遊歩道に向かつて行きました。なにせ今朝はまだ誰も踏んでいない雪の上を歩けるのですから。

薄曇りがやがて青空へと変わるという幸運も重なり、とても贅沢な時間が流れました。

さて、ランニングのロングコースは、越ヶ浜駅前を出発して、松陰神社前・萩駅前・玉江駅前、そして菊ヶ浜を眺めて越ヶ浜駅前に戻ります。おそらく距離は一七km弱で、大抵一時間四〇分程度で帰ります。萩二角州の外周なのでほとんど平坦、城下町の町並みというよりは、海や川の景色が楽しいコースです。

阿武川の流れが二つに分かれた松本川と橋本川は、河口付近というところで、潮の満ち干で水位が変わるほど緩やかな流れです。それが冬になると、北西方向からの強い季節風が吹き渡り、ちょうど河口から上流に向かつて吹くことから波が遡上する、つまり風で起きた波が川上に向かつて揺れ動いていくのです。

ランニングをしている時は

対岸の広場にサッカーをする子供たちがいたり、川面に鴨や鶴など水鳥がいたり、夏みかんがたわわに実っているのを目にすると、走つてみると季節ごとの景色をより味わえるものです。

ところで、私のようにキヨロキヨロ見ながら走っているのは珍しいのか、時々すれ違うランナーたちは目つきが異なるような気がします。目が

思ひもリラックスしていますから、『斎藤茂吉の「最上川逆ベとなりにけるかも」だ。いやあれば内陸だし、これ白波のたつまでにふぶくゆふた。狭い歩道にはみ出しても、花が咲いていたら許してしまふうとは呑気なもので。

を逆白波と言つたら『けしからん!』と一喝されてしまうだろう。』などと独りごちて笑つてしましました。



### 惠まれた漁場の幸に舌鼓

広くて平らな大陸棚に火山や溶岩が「瀬」を作る萩の海。海流が瀬にぶつかることでプランクトンが良く育ち、それを食べるために魚が集まります。瀬つきアジ・ケンサキイカ・ウニ・あまだいなど、萩沖の漁場は海の恵みの宝庫です。